

7 農総試第 102-9 号  
令和 7 年 1 月 3 日

関 係 各 位

愛知県農業総合試験場長

病害虫発生予察情報について（送付）

このことについて、下記のとおり発表しましたので、参考にしてください。

記

令和 7 年度病害虫発生予報第 9 号（12 月）

担 当 環境基盤研究部病害虫防除室  
電 話 0561-41-9513  
ファックス 0561-63-7820

---

令和 7 年度病害虫発生予報第 9 号（12 月）

令和 7 年 1 月 3 日  
愛 知 県

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
ハクサイ キャベツ	コナガ	平年並	県全域	11 月下旬の発生量はハクサイ ほ場で平年並、キャベツほ場 で平年並 フェロモントラップにおける 誘殺数は平年並	± ±
トマト (施設)	葉かび病	やや多い	県全域	11 月下旬の発生量はやや多い	+

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
トマト (施設)	黄化葉巻病	やや多い	県全域	11月下旬の発生量は平年並 11月下旬のコナジラミ類の発 生量は平年並 12月のコナジラミ類の予想発 生量はやや多い	± ± +
	コナジラミ類	やや多い	県全域	11月下旬の発生量は平年並 直近5年間の発生量が多い	± +
ナス (施設)	うどんこ病	やや多い	県全域	11月下旬の発生量はやや多い	+
	ミナミキイロ アザミウマ	やや多い	県全域	11月下旬の発生量はやや多い	+
キュウリ (施設)	ベと病	平年並	県全域	11月下旬の発生量は平年並	±
	ミナミキイロ アザミウマ	平年並	県全域	11月下旬の発生量は平年並	±
イチゴ (施設)	灰色かび病	平年並	県全域	11月下旬の発生量は平年並	±
	うどんこ病	平年並	県全域	11月下旬の発生量は平年並	±
	ハダニ類	やや少ない	県全域	11月下旬の発生量はやや少ない	—

#### ・防除対策

##### [トマト (施設) ・葉かび病]

ダコニール1000やラリー乳剤で防除しましょう。

##### [トマト (施設) ・黄化葉巻病、コナジラミ類]

10月1日発表の「コナジラミ類情報第2号 (トマト)」を参照してください。

##### [ナス (施設) ・うどんこ病]

ベルクートフロアブルやトリフミン水和剤で防除しましょう。

##### [ナス (施設) ・ミナミキイロアザミウマ]

本日発表の「ミナミキイロアザミウマ情報第2号」を参照してください。

#### ・留意事項

チョウ目害虫 (ハスモンヨトウ、オオタバコガ、シロイチモジヨトウ) について、気温の低下とともにフェロモントラップでの誘殺数は減少していますが、一部地点でやや多い状況です。防除を行うとともに、施設内へ侵入させないよう注意しましょう。

トマトキバガは、引き続きフェロモントラップにおける誘殺が確認されています。施設内で発生した場合、越冬する可能性があるので注意しましょう。ほ場で初確認した場合は最寄りの農業改良普及課または病害虫防除室にお知らせください。11月4日発表の「トマトキバガ情報第2号 (トマト)」も参考にしてください。

キュウリほ場での11月下旬の巡回調査において、ミナミキイロアザミウマの媒介で発病する黄化えそ病の発生量はやや多い状況です。詳細は本日発表の「ミナミキイロアザミウマ情報第2号」を参照してください。

一部イチゴほ場ではハダニ類の発生が多くなっています。農薬は訪花昆虫や天敵への影響も考慮して選定し、防除を行いましょう。

施設野菜では、施設を閉め切る場合や暖房機の稼働時間が短い場合に湿度が高くなり、灰色かび病が発生しやすくなります。湿度管理に注意し、予防的な農薬散布を行いましょう。初発を確認したら速やかに防除し、発病果や発病葉は施設外に持ち出して適切に処分しましょう。

## 作物

### ・留意事項

スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）は、水田や水路で土中に潜って越冬します。本年スクミリンゴガイによる被害が見られたほ場では越冬量を減らすため防除対策を行いましょう。詳細は本日発表の「スクミリンゴガイ情報第2号」を参照してください。

### 参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方気象台 11月27日発表）

〈予想される向こう1か月の天候〉

平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：40% 平年並：40% 高い：20%

〔降水量〕 少ない：70% 平年並：20% 多い：10%

〔日照時間〕 少ない：10% 平年並：20% 多い：70%

### 「農薬使用者のみなさんへ」

- 飛散防止にこれまで以上に留意し、農薬の適正使用に努めましょう。
- 農薬使用前にはラベルの内容を確認しましょう。
- 農薬散布後は、防除器具のタンクやホースも、洗いもれがないようにしましょう。
- 農薬は、安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。
- 農薬の使用状況を帳簿に記載しましょう。
- 農薬の空容器は、ほ場などに放置せずに適切に処理しましょう。